

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部 事務局の取組について



平成30年9月3日

文化プログラムの推進に向けた取組みについて

平成31年度要求額:東京オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部経費910百万円の内数
(前年度予算額:同経費576百万円の内数)

2020年は、日本の文化を世界に発信する絶好の機会。オリパラ事務局では、以下の2つ事業を柱に、2020年以降を見据え、地域性豊かで多様性に富んだ日本の文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーを創出する。

① オリパラ基本方針推進調査

- 2020年東京大会の機運醸成を図るため、多言語対応・バリアフリー対応等に取り組む文化イベントについて、試行プロジェクトを実施することにより、その効果と課題を分析。

② beyond2020プログラムの認証等

- 2020年以降を見据え、レガシー創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として認証し、日本全国に展開。
- 同プログラムの更なる推進に向けて、「beyond2020プログラム」の運営や全体のプロモーション等を実施。

オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査について

大会の機運醸成に向けて、多言語対応・バリアフリー対応等に取り組む文化イベントについて、試行プロジェクトを実施することにより、その効果と課題を分析。

⇒文化におけるレガシーの創出につなげるとともに、東京大会の機運醸成を全国的に展開していく。

◆平成30年度実施概要

- 今年度は、1件当たり上限1,000万円のプロジェクトに加え、上限3,000万円のプロジェクトを新たに募集。
- 採択件数：10件（上限3,000万円：4件、上限1,000万円：6件）
- 採択案件は、beyond2020プログラムとして認証。

（参考）これまでの採択実績

平成28年度 32件

平成29年度 21件

平成30年度採択案件の特徴

1. 象徴的空間の活用

文化の情報発信拠点となりうる象徴的な空間で実施する事業。

（採択事業例）

- ・岡崎明治酒場（京都市岡崎エリア）
- ・新宿御苑 DARK PARK WALKING（仮）
- ・Edo⇄2018 すみだ川再発見！「ふねと水辺のアートプロジェクト」（隅田川、吾妻橋周辺）
- ・東京ハーヴェスト（新虎通りに「屋台横丁」を設置）

2. ナイトタイムの活用

通常昼の時間帯しか開いていない施設で、ナイトタイムの活用を図る事業。

（採択事業例）

- ・岡崎明治酒場（平安神宮、京都市美術館等を特別に夜間にオープン）
- ・新宿御苑 DARK PARK WALKING（仮）（通常は閉園している夜間に光と音のインスタレーションを設置）

3. 日本の食文化発信

優れた日本の食文化の普及・発信を行い、大会の機運醸成につなげる事業。

（採択事業例）

- ・東京ハーヴェスト（被災地の食材の提供、GAP認証等の普及）

平成30年度採択案件一覧

★・・・文化情報発信拠点型プロジェクト

採択	法人名	試行プロジェクト名	エリア	時期	概要
① ★	岡崎明治酒場実行委員会	岡崎明治酒場	京都岡崎エリア（平安神宮、京都市動物園、京都伝統産業ふれあい館、京都モダンテラス京都市美術館）	2018年 10月26日(金)	・京都で文化施設が集積する岡崎エリアを使い、「明治時代」をテーマに、同時にタイムスリップして遊ぶ夜のお祭を開催。 ・平安神宮、美術館、劇場等の各施設を、伝統芸能・工芸・日本酒など伝統文化に関わる京都市人が装飾演出しておもてなし。 ・ゲストは、お酒片手に各所を巡り、京都人と飲み語る一夜限りの文化テーマパークを楽しむ。
② ★	株式会社KADOKAWA	Edo⇄2018 すみだ川再発見！「ふねと水辺のアートプロジェクト」	東京都墨田区・隅田川流域	2018年 9月～12月	・文化や経済、生活の中心だった隅田川を芸術文化発信拠点として国内外に発信し、日本の歴史文化への深い興味理解を促す。 ・①「水面」②川に架かる「橋」③水面を取り囲む「川岸」と隅田川全体を活用した企画を実施。（アート作品「ファスナーの船」の運航、川に架かる橋の下にアートを開設、等） ・障がい者・高齢者等による「現代版うろうろ舟（飲食物販売）」を運航し、水面と川岸の交流を創出。
③ ★	新宿御苑 OPEN PARK プロジェクト実行委員会	新宿御苑 DARK PARK WALKING(仮)	東京都・新宿御苑	2018年 10月12日(金)、 13日(土)予定	・夜間の新宿御苑に光と音のインスタレーションを設置し、参加者が思い思いに回遊できる3000人規模のアートイベントを実施。 ・その効果・課題等を整理し、2020年とその先に新宿御苑が文化発信拠点となるために必要な施策について、各方面と学びを共有・議論。
④ ★	東京ハーヴェスト実行委員会	東京ハーヴェスト	東京都・虎ノ門ヒルズ、新虎通り（歩道）一部	2018年 10月11日(木)～ 13日(土)	・優れた日本の食文化の普及・発信と機運醸成につなげるため新虎通りで屋台横丁などを実施。 ・和食本来の豊かな地域性を外国人に伝えるべく、英語・中国語などの多言語で発信。 ・GAP/MSC/ASC認証について、消費者認知を高める。
⑤	株式会社 JTBCコミュニケーションデザイン	東京2020機運醸成とユニバーサルイベント実現に向けた調査・発信事業－万華響DRUM TAOを切り口に－	東京都新宿区	2018年 10月19日(金) 11月16日(金)	・和太鼓集団である「Drum Tao」の公演を切り口に、言語や障害を越えて、誰もが参加できるイベントのあり方を調査。 ・本プロジェクトについて取材してもらい、海外を含めたメディアで積極的に発信。 ・ユニバーサルイベントの実現、日本の魅力発信、ナイトタイムエコノミー消費額の拡大を狙う。
⑥	株式会社電通東日本	三条市・さいたま市の広域連携による「庭園・盆栽」の国際ブランド化プロジェクト	新潟県三条市、埼玉県さいたま市	2018年10月	・三条市保内地区の盆栽・造園とさいたま市大宮地区の盆栽について、両市の広域連携の下、高い技術力やそれを培った歴史等を国内外に向け発信。 ・世界の共通語になっている「BONSAI」につづき、「TEIEN」を世界の共通語・ブランドとするべく、訪日外国人に対するイベントを通じて情報発信を図る。
⑦	一般社団法人 日本花火推進協会の	東京オリンピック・パラリンピック HANABI 2020の実現に向けた試行プロジェクト～視聴覚障害者が体感できる花火の模索～	秋田県大仙市（雄物川右岸河川敷）	2018年 10月13日(土) ※ワークショップは、 9月15日(土)	・2020年のオリパラ大会と連動した花火大会「HANABI2020」を企画も見据え、「障がい者も楽しめる花火大会」を実現。 ・大曲の花火大会（秋開催）において、視聴覚障害者がどうしたら花火を体感することができるのかについて検証。
⑧	NPO法人阿寒観光協会 まちづくり推進機構	先住民族アイヌ文化交流イベント『カムイモシリ・アイヌモシリ』	北海道釧路市	2018年 11月24日(土)、 25日(日)	・アイヌ民族が伝承された舞踊、音楽、工芸及び自然と共生する生活思想などを、ひとつのイベント空間に表現。 ・アイヌ民族のひとつの拠点である釧路市で実現することにより、ひがし北海道へのインバウンドを刺激し、地方活性化を図る。
⑨	株式会社 ブランド総合研究所	食のバリアフリープロジェクト(各地でのインバウンド向け食事のハラル、ベジタリアン対策支援プロジェクト)	全国6か所程度（モデル地域の候補：北海道、山形県、栃木県宇都宮市、東京都、長野県大町市、福岡県、沖縄県糸満市）	2018年9月～ 2019年1月	・宗教上の食の規律（※）により「食のバリア」とならないよう、研修・アドバイスをを行い、イベントや祭りでの試験提供などを実施。 （※）ムスリムやヒンズー教、ユダヤ教には、ハラル、ベジタリアン、コーシャ、ヴィーガンなどの食の規律がある。 ・ホストタウンとなっている地域も含めた全国6か所をモデル地域として、外国人の反応と評価を調査し、2020年に向けた実践につなげる。
⑩	スロームーブメント 実行委員会	SLOW ACADEMY 2020年オリパラ大会・文化プログラムにおける障害者参加を支える人材育成プログラム	東京都内、横浜市	2018年10月～ 12月	・福祉施設職員や、新たに障害者との活動を模索するアーティスト、障害者の創作活動に関わる芸術文化イベント主催者達をターゲットとした研修プログラムを研究。 ・「シルク・ドゥ・ソレイユ」の特別協力のもと、先進的なソーシャルサーカスマethodを取り入れ、日本独自の研修プログラム「スローアカデミープログラム」を開発。

平成29年度実施試行プロジェクト例 ①

○ 大相撲beyond2020場所

障害者や外国人を招待して、特別な大相撲場所を実施。
手話通訳や字幕モニター、溜席への車椅子エリアの設置、
外国人向けの日英同時解説等を実施。

(検証ポイント)

- ・多様な障害者向けのバリアフリー対応
- ・日本文化の理解促進のための多言語対応の手法



○ 夕暮れ能@伏見稻荷大社

夕暮れ時の伏見稻荷神楽殿において、地酒を嗜みながら能を楽しむイベント。
日本の美意識「幽玄」を体感。

(検証ポイント)

- ・寺社仏閣、文化財等(ユニークベニュー)の有効活用
- ・伝統芸能のリデザインと海外発信



平成29年度実施試行プロジェクト例 ②

○ TOKYO MURAL PROJECT in 新虎通り

新虎通りに立地する建物壁面に壁画を描き、街全体をアートギャラリーに一変させるプロジェクト。

(検証ポイント)

- ・日本におけるパブリックアートの発展可能性
- ・屋外広告物条例の規制範囲内での壁面絵画の可能性を模索



○ HANABI Fes. 2020

名人花火師の指導の下、障害者の方が花火をデザイン。実際に打ち上げられた花火を会場で観覧。

(検証ポイント)

- ・屋外イベントにおける障害者参加の物理的なバリアへの対応
- ・当事者参加による心のバリアフリーのあり方



beyond2020プログラムについて

◆beyond2020プログラムの趣旨（2017年1月末から認証開始）

- 2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化活動・事業を「beyond2020プログラム」として認証。
- ロゴマークの付与により、統一感を持って日本全国へ展開。

◆認証要件

- 日本の文化の魅力を発信する事業・活動
- 多様性・国際性に配慮した、以下のいずれかを含んだ活動・事業
 - ・障害者にとってのバリアを取り除く取組
 - ・外国人にとっての言語の壁を取り除く取組

◆ロゴマーク



- ・ロゴマークのデザインは、「いいね」や「グッド」などの賛同のジェスチャーをモチーフ。加えて、beyondの「b」や、日本を象徴する「わ」とも読み取れる。
- ・日本の文化を共に継承し広げていきたい、との願いを込めて、2020年を新たな発展へのステップとしてシンボライズしたロゴマーク。

認証状況(平成30年8月31日現在)

認証件数	6,956件		
開催地域別 認証件数	・北海道 121件 ・東北 292件 ・東京 614件 ・関東(東京除く) 1,002件 ・中部 814件	・近畿 711件 ・中国 446件 ・四国 244件 ・九州 427件 ・海外 2,233件 ・その他(インターネット等) 52件	
団体分類別 認証件数	・国の機関 2,371件 ・地方公共団体 1,185件 ・公益法人等 1,173件	・株式会社等 247件 ・その他(実行委員会等) 1,980件	
実施分野別 認証件数	・伝統芸能・まつり 747件 ・現代アート・メディア芸術 201件 ・食文化 187件 ・障害者芸術 87件 ・音楽 1,248件	・演劇 260件 ・美術 478件 ・工芸 113件 ・映画・写真 501件 ・その他 3,134件	
主なイベント	○地域の祭り :よさこい祭り(よさこい祭振興会)、神田祭(神田明神) ○ファッション :東京ガールズコレクション(ガールズコレクション実行委員会) ○現代アート・芸術 :ヨコハマトリエンナーレ(横浜トリエンナーレ実行委員会) 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ(大地の芸術祭実行委員会) ○食文化 :國酒PR推進事業(日本酒造組合中央会)		

beyond2020プログラム認証事業例 ①

① 神田明神

② 神田祭

③ ■ 多様性 ■ 国際性

- ④ 2年に1度5月中旬に開催。メインの「神幸祭」では、100台もの神輿が集結して、約1000人、500メートル以上も続く行列が東京を埋めつくす。
境内にはスロープを設置するとともに、車椅子でお越しになる方のために、門前にある由緒書は英語・中国語・韓国語に対応。



① ニコニコ超会議実行委員会

② ニコニコ超会議2017

③ ■ 多様性 ■ 国際性

- ④ 大相撲や歌舞伎などの伝統文化や芸能と、最新のテクノロジーを融合した新しいエンターテインメント。
車椅子でご来場の方には専用の動線を用意。会場内のサイン、インフォーションカウンター、パンフレットは、英語、中国語対応。公式HPでは、英語、中国語に加えて、フランス語、スペイン語に対応。



beyond2020プログラム認証事業例 ②

① いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催実行委員会

② いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭

③ ■ 多様性 ■ 国際性

④ 日本の伝統芸能である素囃子や雅楽などを盛り込んだ、石川ならではの音楽祭を国際的に発信。
外国人観光客向け、多言語化したホームページやチラシ、パンフレットの作成や、障害者向けの施設での演奏を実施するなど、誰もが楽しめるように工夫。



① 外務省 在外公館文化事業

② 外務省

③ □ 多様性 ■ 国際性

④ 対日理解の促進や親日層の形成を目的として、外交活動の一環として開催する日本文化の発信事業。
映画上映会、武道デモンストレーション、陶芸・郷土玩具・折り紙作品・生け花等の展示等を実施。近年では「ポップカルチャー」や日本の食文化PR等を積極的に奨励。

